

# 5

## 日常的な利用計画

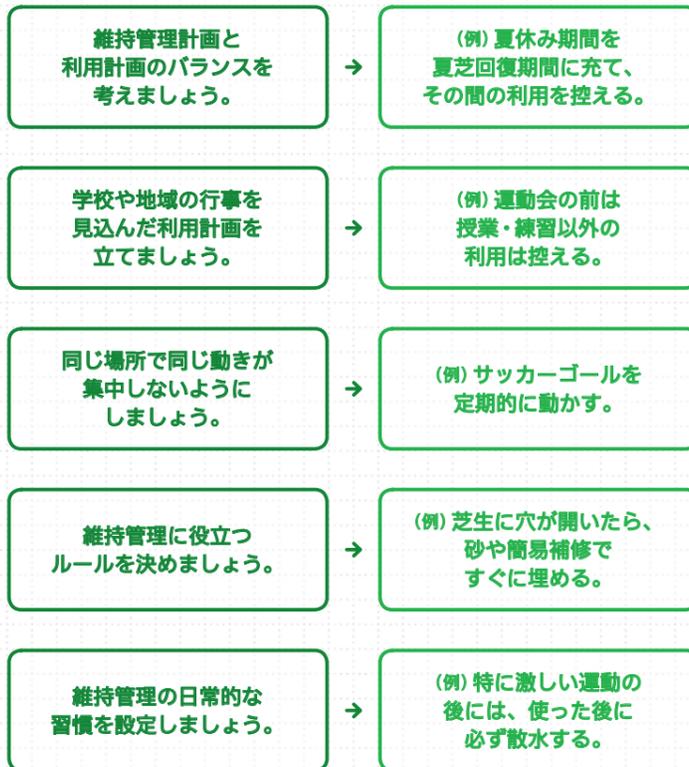
### 5-1 利用ルール

芝生は芝草が集まった生き物です。他の舗装と違い多少の傷みから、自力で回復する力を持っています。回復力より、傷みの方が大きいと芝生の状態は悪くな

っていくため、傷みがひどくならないよう、利用のルールを決めましょう。状態が悪くなればなるほど、回復するまでに必要な時間は長くなります。

#### 1 利用ルールのポイント

- 荷重が小さな面積に集中すること、引きずったり、すれたりする動き、長時間日が当たらないこと、熱が上がりすぎることなどは、芝生に大きなダメージを与えることがあります。決めたルールは、使う人全員が理解していることが大切です。
- 芝生に向かない運動でも、回数や頻度によっては問題とならない場合があります。行う時間を区切る、同じ場所でやらないなど、工夫しましょう。



#### ● 芝生に向かない利用



縄跳び 葉や茎が擦り切れてしまう



大人の綱引き 根こそぎめくれてしまう



一輪車や自転車 抵抗があり乗りにくい



バスケットボール ボールが弾まない

### 5-2 状態の見方

芝生の状態は日々変わります。芝生の様子をよく見て、必要な手を打つことが、維持管理では大切です。

#### 1 点検のポイント

チェック項目	原因と対応策
葉の黄色味が強い、伸びが悪い	肥料が不足していると、黄色味が強くなり、伸びも悪くなります。肥料散布の記録を確認し、必要に応じて肥料散布を行いましょう。
変色しているところがある	変色している範囲が正円や方形の場合は、物を長時間置いたようなことがなかったかを確認しましょう。不定形の場合は、病気の可能性があります。
足跡が残りやすい	散水不足の時に、足跡が残りやすくなります。散水量を多めにする、散水間隔を短くするなどの対応を行いましょう。
密度が薄いところや土が見えているところの経過	特定の場所の写真を撮っておくと、経過が比較しやすくなります。
水たまりの範囲	雨上がりに水たまりができていた範囲を記録し、エアレーションをする、目砂を行うなどして、排水性を改善しましょう。

※ 写真を残すと、専門家に相談するときにも役立ちます。

#### 2 維持管理活動記録

維持管理活動の内容や、点検して気付いた点を書き残し、次に作業をする人や芝生に関わる多くの人と情報を共有しましょう。記録には、場所を書き込める図や写真を貼れるスペースを作ると便利です。特に写真は、定期的に撮影しておく、次の世代の引継資料にもなります。

維持管理活動記録の雛形は、P66にあります。



## 5-3 芝生を休ませる

完全な状態を保つよう利用ルールを守り、維持管理を行っていても、気候の変化や使われ方などで、しばしば元気がなくなってしまいます。このような時、芝生を休ませることが、回復への早道です。

できるだけ校庭を使用できる方法を考え、利用と養生のバランスをとることが大切です。

### ● 休ませ方のポイント



## 5-4 校庭利用団体との調整

校庭は、地域のスポーツ団体の練習場、試合会場、地域の町会や幼稚園・保育所の運動会の場になるなど、地域に利用されていることもよくあります。また、地域のスポーツ団体や町会の方々は、校庭芝生の維持管

理活動の重要な担い手ともなっています。これらの地域の活動との調整をうまく行うことで、芝生の維持管理も大きく軽減できます。

### 1 芝生の状態の良い場所から使う (ローテーション利用)

- 芝生が傷んだ場所をそのまま使い続けると、いつまで経っても回復しません。芝生の状態の良い場所を優先的に使しましょう。
- 校庭利用団体の練習では、サッカーゴールの位置や、ホームベースの位置を積極的に移動させ、利用による芝生への負荷を分散させましょう。

### 2 芝生の保護マットなどの活用

- 野球のピッチャーマウンドやバッターボックスなど、踏圧の掛かりやすい場所では、ゴム製の保護マット(例:P38参照)を利用して、芝生の傷みを軽減することができます。

## 3 養生を実施する場合

### ● 学校側の対応

- 養生を実施する場合、校庭利用団体へ早めに連絡しましょう。
- 養生の必要性を早めに判断したい場合は、専門家に相談しましょう。

### ● 校庭利用団体側の工夫

- 養生がよく実施される時期として、「夏休み期間

(夏芝の回復)」、「冬芝の種まき後の育成期間」の二つが挙げられます。

- 校庭利用団体は、養生期間が分かたら、対外試合を増やす、合宿を行うなど、外部での活動予定を事前に計画しておきましょう。
- 冬芝の種まきは、学校行事などに応じて、毎年同じ時期に行われます。その時期の代替グラウンドを予め確保しておきましょう。

## 5-5 朝礼台周り、昇降口周りなどの傷み対策

朝礼台周りや昇降口周り、校庭への出入り口は、授業での集合場所となったり、人が多く集まるため、芝生が傷みやすい傾向にあります。

### 1 朝礼台周りの対策

- 朝礼台周りの芝生の傷みを軽減するには、朝礼台を使うときだけ、出すようにするのが一番の対策です。
- 近年、大人二人で移動できるような軽量タイプの朝礼台も販売されています。



写真中央の昇降口から、子供たちの出入りが多数ある例。カラーコーンとバーで、校庭への出入りの動線を左右に振り分けています。

### 2 昇降口周り・校庭への出入り口の対策

- 対応策は、動線を分散させることです。動線を分散させるには、杭とロープ、カラーコーンとバーの利用の他に、大型のプランターなどを用いる手法があります。



校舎(写真左側)と体育館(写真右側)の間から、子供たちの出入りが多数ある例。緑化工事の際に用いるネットを常設し、動線を左右に振り分けています。

## 5-6 ラインの引き方

### 1 炭酸カルシウムのラインパウダー

- 炭酸カルシウムのラインパウダーであれば、芝草が枯れることはありません。
- ただし、同じところへ何度もラインを引くと、その部分で層ができ、芝生が生育しにくくなるケースがあります。



同じ場所に何度もラインを引いた例

### 2 卵の殻由来のラインパウダー

- 同じ炭酸カルシウムが主成分のラインパウダーでも、卵の殻を材料としたラインパウダーがあります。芝生専用のラインパウダーとして販売されています。
- このタイプのラインパウダーは、芝生の栄養成分として、ラインを引いた部分の芝生の生育が良くなり、緑色が濃くなることもあります。
- 卵アレルギーの子供が在籍している場合には、炭酸カルシウムのラインパウダーか、下記の水性ペイントを使いましょう。



卵の殻由来のラインパウダー利用により、緑色が濃くなっています。

### 3 水性ペイント

- 競技場などのラインは、水性ペイントで引かれています。水性ペイントは、水性ペイントマーカーマシンを使ってラインを引きます。
- 水性ペイントには、ラインを一度引くと、鮮やかで消えにくい特徴があります。運動会の際には、鮮やかで分かりやすいラインが引けるばかりでなく、運動会途中でのラインの引き直しが不要になるなどのメリットもあります。
- 水性ペイントマーカーマシンによるライン引きでは、水性ペイントの希釈、使用後のノズルの洗浄などが必要です。
- スプレータイプの水性ペイントもあり、補助的に使えます。



水性ペイントマーカーマシンによるライン引き

### 4 カラーコーンや皿コーン

- 通常の授業などでの簡単な目印として、カラーコーンや皿コーンがよく利用されています。
- 芝生を傷めることがほぼなく、手軽に設置できるのがメリットです。
- ただし、暑い時期にカラーコーンを置きっぱなしにすると、半日程度でも芝生が黄色く変色することがありますので、使った後は必ず回収しましょう。

## 5-7 冬季の芝生養生シートの利用

12月頃から2月頃まで、夏芝に限らず、冬芝も生育がほぼ止まります。冬芝の場合、寒さが強くなると、一時的に緑色が退色し、黄色味を帯びることがあります。

このような場合、芝生養生シートを使用することで、回復させることができます。

### 1 芝生養生シートとは

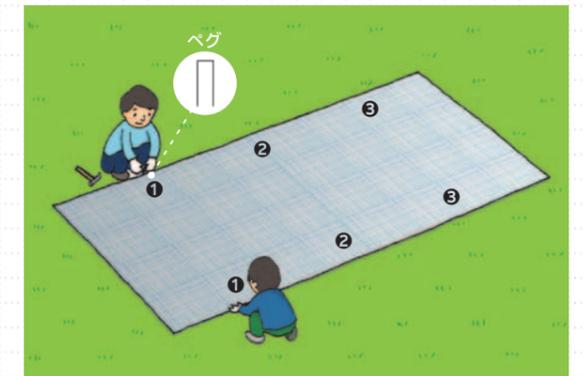
- 芝生養生シートは、特に厳冬期に保温効果により芝生を回復させるシートです。
- 芝生養生シートには、既成の大きさの製品のほか、芝生地 の形や大きさに合わせてオーダーメイドされた製品もあります。
- 農業用のべたがけシート（不織布でできているもの）も、保温の面では最も効果的ですが、風などで破れやすく耐久性が低いというデメリットもあります。



芝生養生シート

### 2 芝生養生シートの敷設・撤去

- 芝生養生シートは、ペグ（止め具）で止めます。
- 芝生養生シートを敷設する際には、ペグをシートの対面で打っていき、ピンと張りやすくなります。また、敷設の際に使ったペグの数を記録しておきましょう。
- ペグは抜けることがあるので、敷設期間中のペグ抜けをチェックしましょう。
- 芝生養生シートを撤去する際は、ペグの回収と数のチェックを行ってください。
- 芝生養生シートを折り畳む際は、蛇腹折りにすると、次の敷設の際に広げやすくなります。



### 3 芝生養生シートの敷設パターン

- 敷設時期は、
  - 冬休みの間だけ芝生養生シートを敷設するパターン
  - 冬休みから卒業式前まで敷設するパターン
  - 厳冬期の夜間だけに敷設するパターンなどがあります。
- 卒業式前まで敷設する場合は、芝生地全面ではなく、卒業写真を撮る部分だけにかける方法もあります。



農業用のべたがけシート

## 5-8 使いながら芝生を保護する対策

### 1 保護マットを使う

ゴルフ場のティーグラウンドなどで使われているゴム製の保護マットを使う方法です。

- 本来、芝生地に埋め込んで使いますが、この方法では、傷みやすいところに、平滑面を上にして使います。
- 特に3月から4月にかけては、黒色の保護マットが熱を集め、地温を上げる効果があるので、夏芝の芽出しを早くさせる効果があります。芝生が絡まる前に動かしていくことがポイントです。
- 5月以降は、保護マットが熱を集め過ぎ、芝生が焼けてしまう場合があるので、注意が必要です。



保護マットを敷設した例。ボールが置いてある場所は、保護マットが置いてあった場所で、新芽が他より多く出ています。



保護マットをめくった状態。凹凸面を下に平滑面を上にする事で、利用しやすくします。

### 2 『芝生のバンソウコウ』(防虫ネット)を使う

透光率の高い防虫ネット(農業用)を芝生の上に張り、芝生を保護する方法です。『芝生のバンソウコウ』の上を、そのまま利用するのが最大の特徴です。

#### ● 利用時期・目的

- ① 夏芝を補植した場所の保護
  - ② 冬季における芝生の擦り切れ防止
- ※ 保温効果は、ほとんどありません。

#### ● 利用上の注意点

- ① ピンと張る(ネット末端における引っかかりを防止)
- ② ベグ抜きを定期的を確認
- ③ 雨上がりは、やや滑りやすい。

#### ● 『芝生のバンソウコウ』と芝生養生シートの違い

シートの種類	敷設範囲の上を利用	目的
芝生のバンソウコウ	利用できる	芝生の擦り切れ抑制
芝生養生シート	利用できない	主に保温による芝生の回復



『芝生のバンソウコウ』の利用状況

## 5-9 ほ場

### 1 ほ場とは

ほ場とは、補植用の芝生をあらかじめ作っておく場所です。特に夏芝のほ場が多く作られています。

- 花壇などで芝生を育て、ほ場としている学校もあります。
- ほ場は、補植の際にとっても便利です。



花壇を利用して芝生ほ場とした例

### 2 ほ場の作り方・育て方

花壇などに、バミューダグラスの茎をばらまいて、土壌へすき込むだけで作れます。ほ場を作る時期は6月頃が最適です。

- 花壇などに使っている土壌は、保水性が良いケースが多いので、酷暑時期を除き、散水は基本的に降雨だけで十分な場合がほとんどです。
- 他の芝生地と同様に、ほ場でも芝刈りや肥料散布を行うと、より生育が良くなります。



ポット苗を育てていた場所で、ポットの底からはみ出したバミューダグラスの根が定着し、自然と芝生ほ場になった例

### 3 ほ場の活用方法

- 夏芝の補植時に、ポット苗作りの際の際の元苗として切り出し、使用できます。
- ホールカッターで芝生を切り出した場合には、穴を砂で埋めれば、翌年には再び切り出しが可能です。